

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 財務諸表監査における質問実施の史的展開と監査証拠論的インプリケーション   |
| Sub Title        | The historical developments of audit inquiry and it's implications for the theory of audit evidence   |
| Author           | 永見, 尊(Nagami, Takashi)  |
| Publisher        | 慶應義塾大学  |
| Publication year | 2021  |
| Jtitle           | 学事振興資金研究成果実績報告書 (2020. )  |
| JaLC DOI         |   |
| Abstract         | <p>財務諸表監査における監査技術としての質問は、歴史的に早い段階から実施されてきているが、どの段階から、どのような形で実施されているのかを明らかにした文献は見出されていないようである。そこで、本研究は、質問がいつからどのような形で実施されてきたのか、そして監査意見形成において質問の意義はどのように変わってきたのかについて、モンゴメリーが執筆した監査書を初版から第12版までのすべてについて通読し、質問がどのような形で実施されてきたのかを調査した。</p> <p>本研究によって、監査技術としての質問の実施内容を特徴づけるには、次の3つの側面があることを明らかとした。それは、質問実施の対象、質問の性質、そして質問の実施における職業的懐疑心である。初版が出版された1914年当時には、質問は、監査要点を裏付けるという性質しか有しておらず、職業的懐疑心もほとんど意識されておらず、そしてその対象は資産項目や負債項目が中心となっているような状況であった。しかし時代を経るにしたがって、質問の対象は拡大し、質問の性質は様々な内容を有するようになり、そして職業的懐疑心は徐々に高められていった。1980年代に入り、リスクアプローチが監査の中心に置かれるようになると、質問の性質にはリスク評価という視点が加わるようになった。さらに1980年代から90年代にわたって監査期待ギャップ基準が公表され、また不正会計が社会的に問題視されるようになると、質問において仮名の職業的懐疑心はより高められるようになり、不正を疑う質問の姿勢が有されるようになっていった。モンゴメリーの監査書は1990年代までとなっているが、21世紀になると様々な監査書ではより不正への対応が意識され、質問の性質には相手の嘘を発見するしぐさや言葉を検出することが含まれ、そして職業的懐疑心はより高められていき、質問の対象項目も多岐にわたり数多くがターゲットとされていった。質問は歴史的にたどるとこれら3つの側面すべてにおいて拡張していったことが明らかとなった。</p> <p>Audit inquiry in financial statement audit have performed from very early times, but it's state of implementation and characteristics have never been researched. I focused on the textbook of Montgomery's Auditing which have been published for twelve editions and have analyzed these books in a perspectives of audit inquiry.</p> <p>I have set three aspects to make analysis of these books, which are objectives, characteristics and skepticism. This research found that performance of audit inquiry has historically been expanded in every three aspects, and especially have addressed for fraudulent financial statements.</p> |
| Notes            |   |
| Genre            | Research Paper  |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2020000008-20200079">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2020000008-20200079</a>   |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

|  |                    |                        |                          |                |     |            |
|--|--------------------|------------------------|--------------------------|----------------|-----|------------|
| 研究代表者  | 所属                 | 商学部                    | 職名                       | 教授             | 補助額 | 300 (A) 千円 |
|  | 氏名                 | 永見 尊                   | 氏名 (英語)                  | Takashi Nagami |     |            |
| 研究課題 (日本語)   |                    |                        |                          |                |     |            |
| 財務諸表監査における質問実施の史的展開と監査証拠論的インプリケーション  |                    |                        |                          |                |     |            |
| 研究課題 (英訳)  |                    |                        |                          |                |     |            |
| The historical developments of audit inquiry and it's implications for the theory of audit evidence  |                    |                        |                          |                |     |            |
| 1. 研究成果実績の概要   |                    |                        |                          |                |     |            |
| <p>財務諸表監査における監査技術としての質問は、歴史的に早い段階から実施されてきているが、どの段階から、どのような形で実施されているのかを明らかにした文献は見出されていないようである。そこで、本研究は、質問がいつからどのような形で実施されてきたのか、そして監査意見形成において質問の意義はどのように変わってきたのかについて、モンゴメリーが執筆した監査書を初版から第12版までのすべてについて通読し、質問がどのような形で実施されてきたのかを調査した。</p> <p>本研究によって、監査技術としての質問の実施内容を特徴づけるには、次の3つの側面があることを明らかとした。それは、質問実施の対象、質問の性質、そして質問の実施における職業的懐疑心である。初版が出版された1914年当時には、質問は、監査要点を裏付けるという性質しか有しておらず、職業的懐疑心もほとんど意識されておらず、そしてその対象は資産項目や負債項目が中心となっているような状況であった。しかし時代を経るにしたがって、質問の対象は拡大し、質問の性質は様々な内容を有するようになり、そして職業的懐疑心は徐々に高められていった。1980年代に入り、リスクアプローチが監査の中心に置かれるようになると、質問の性質にはリスク評価という視点が加わるようになった。さらに1980年代から90年代にわたって監査期待ギャップ基準が公表され、また不正会計が社会的に問題視されるようになると、質問において仮名の職業的懐疑心はより高められるようになり、不正を疑う質問の姿勢が有されるようになっていった。モンゴメリーの監査書は1990年代までとなっているが、21世紀になると様々な監査書ではより不正への対応が意識され、質問の性質には相手の嘘を発見するしぐさや言葉を検出することが含まれ、そして職業的懐疑心はより高められていき、質問の対象項目も多岐にわたり数多くがターゲットとされていった。質問は歴史的にたどるとこれら3つの側面すべてにおいて拡張していったことが明らかとなった。</p> |                    |                        |                          |                |     |            |
| 2. 研究成果実績の概要 (英訳)  |                    |                        |                          |                |     |            |
| <p>Audit inquiry in financial statement audit have performed from very early times, but it's state of implementation and characteristics have never been researched. I focused on the textbook of Montgomery's Auditing which have been published for twelve editions and have analyzed these books in a perspectives of audit inquiry.</p> <p>I have set three aspects to make analysis of these books, which are objectives, characteristics and skepticism. This research found that performance of audit inquiry has historically been expanded in every three aspects, and especially have addressed for fraudulent financial statements.</p>   |                    |                        |                          |                |     |            |
| 3. 本研究課題に関する発表   |                    |                        |                          |                |     |            |
| 発表者氏名<br>(著者・講演者)  | 発表課題名<br>(著書名・演題)  | 発表学術誌名<br>(著書発行所・講演学会) | 学術誌発行年月<br>(著書発行年月・講演年月) |                |     |            |
| 永見 尊   | 監査手続として拡張する「質問」の意義 | 雑誌『会計』                 | 2021年4月(公表予定)            |                |     |            |